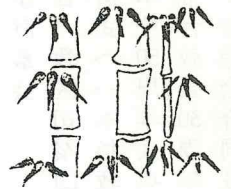


# 仙台司教区 教区事務所だより



(第 19 号)  
昭和 54 年 1 月 10 日

## 年頭の辞

新しい年を迎えるに当たり、教区の皆さまにつつしんでごあいさつ申し上げます。

正月松の内にも、教会の典礼は、「主の公現」を経て「主の洗礼」へと進み、キリストの洗礼を受けたわたしたちが、父なる神の福音を人々に告げたナザレトのイエスと共に、その福音の証し人として生きる毎日が始まります。

昨年は、世界的にも、またカトリック教会においても、激しい変動の一年でした。しかしその中であって、教区内の各地ではいろんな形で、故パウロ六世教皇の「福音宣教」につ

いての勉強会や話し合いが行われ、キリストの弟子としての各人に託された福音宣教の使命の再認識、信仰に生きる者としての自覚の高まり、宣教の熱意の高揚が見られたことは大きな喜びでした。それを踏まえて、この新しい年が、具体的な行動に盛り上がる活気溢れた年となるよう念願しています。

福音宣教は、生きた人と人とのかわりを通じてなされるものですから、その人の生きる生活環境、つまり気候風土、社会習慣、その土地の文化形態等を土台としながら、そこに福音の光をあて、福音に示された神の御心が行われるように努めるべきでしょう。その意味では、福音宣教の具体的方策は、それぞれの小教区、あるいは近隣の小教区が協力し

合って樹立し、実行してゆかねばなりません。地域ごとの協力が一段と強化されるよう強く要望致します。他方、教区が一つの教会として一つの共同目標に向かって邁進する必要もあります。しかもそれが、全世界にわたる教会と共同歩調のとれるものであれば素晴らしいでしょう。

一九七九年が「国際児童年」として全世界の人々こそぞって、人類の次の世代を担うべき児童、子供たちのことを真剣に考え、行動する年にしようと言われていることはご存じの通りです。全世界のキリスト者もそれに参加します。「神の国は、このような人たちのもの」と言われて子供たちを祝福なさった主・キリストの心を心として、わたしたちも努力しなければなりません。

まず手初めに、一月最後の主日は、「カトリック児童福祉の日」であります。これは、全世界の子供たちの連帯意識の涵養と、助け合いの精神を育成することを目的としたものです。それは、広い意味での「子供の信仰教育」でもあるのです。各家庭でも、小教区でも、またカトリック

系教育施設でも、具体的な努力をしてくださるよう、お願いします。

新しい年が、教区内の全司祭、全修道者、全信徒、またそれらのすべてのキリスト者とかかわりを持つすべてのの人々にとって、神の祝福の豊かな年でありますよう心から祈りながら、年頭の司教祝福を送ります。

仙台教区長・司教 佐藤千敬

「信徒の役務」についての

委員会発足 ー司祭評議会ー

去る11月13日、元寺小路教会、信徒館において、今年度の司祭評議会11月例会が開かれ、佐藤司教他、邦人・宣教・修道会司祭12名が参集。  
①信徒の役務に関する委員会の発足について。

②教区司祭団（邦人司祭団）と、宣教・修道会司祭との共同司牧について。

③青少年に対する司牧宣教について、の話し合いが行われた。

議題の中で、特に①信徒の役務についての委員会の発足は注目に値す

る。これは、公会議以後、信徒の役割についてその重要性が指摘されながらも、現実には信徒が動き出せる実状になく、「信徒の役務」の意味と、具体的役割について勉強と見直しが必要であり、この要望に応える機関として発足が決議されたものであり、その責任者として、グアダルペ会ゴンザレス師が推された。この委員会の活動が期待される。

司教様の日程

(1月10日現在)

昭和53年	11月4日	スperlマン病院、看護婦寮祝別	11月5日	堅信式(松木町教会)	11月6日	宗教法人責任役員会	11月7日	幼稚園委員会	11月12日	堅信式(西仙台教会)	11月13日	司祭評議会	11月14日	18日	教区司祭団黙想会	11月19日	堅信式(一本杉教会)	11月23日	神学校50周年式典	11月26日	東仙台教会30周年記念	11月27日	男女修道会合同役員会	
昭和54年	1月1日	元旦ミサ(元寺小路教会)	1月7日	聖ライムンド、司教修道名の祝日	1月10日	プリオット師、追悼ミサ(元寺小路教会)	1月15日	教区司祭団役員会	1月17日	宗教法人責任役員会	1月18日	社会福祉法人理事会	1月19日	スperlマン理事会	1月25日	聖パウロ女子修道会ミサ	1月29日	教区司祭団月例会	2月12日	司牧評議会役員会	2月18日	大阪大司教 着座式		

11月28日~30日 司教会議  
12月4日 教区司祭団月例会  
6日 スperlマン病院理事会  
13日 社会福祉法人カトリック児童福祉会理事会  
16日~17日 築館聖マリア幼稚園30周年記念式典  
18日 司牧評議会常任委員会  
24日 御降誕祭(元寺小路教会)  
27~28日 人事委員会  
29日 司牧評議会常任委員会

第2回

聖書週間を終えて



昨年の11月19～26日、第2回聖書週間が実施された。これは、「日ごるから聖書に親しむため、信者たちの聖書に対する態度を反省させ、そして進歩させるための機会」となることを目指すものである。前回と同じテーマ「聖書を知ることがキリストを知ること」がかかげられた。

仙台教区においても、ミサの説教の中で「聖書週間」について語られたようであるが、左記の教会から、その報告がなされた。

☆ 釜石教会 ミサの説教で、聖書週間が日本のカトリック教会で行われたことを賞揚して話された。ミサ後、10枚の大きなポスターを展示してある室に信徒が集まり、聖書に関する他の展示物（聖書地図、掛図、絵画）を興味深く見たり、聖書や、聖書に関する書籍を買い求めた。

☆ 浪打教会 聖書週間にあたり、新約・旧約聖書について考えてみようということ、聖書に関する18の

設問を作りアンケートをとった。

☆ 岩手カトリックセンター ホールに、聖書 1この不思議な本というテーマのポスター10枚を展示。

又、第3回市民講座として聖書週間中毎日講演会が行われ、信徒が熱心に参加し、活発な質疑応答がなされた。



昭和53年度

仙台司教区司祭大会

去る10月16日から18日まで、仙台セントラルホテルを会場として、昭和53年度の仙台司教区の司祭大会が開催された。参加司祭62名。

サレジオ会士中垣純師を講師に招き、新しく発行された「カトリック儀式書1ゆるしの秘跡」をテキストとして、公会議後、典礼憲章72条にもとづいて刷新された「ゆるしの秘跡」について、熱心な学習が行われた。

司教団が定める日から従来のゆるしの秘跡のやり方は廃止され、新しいやり方に変わるが、それに先立っ

て行われた司祭の研修は、有意義なものだった。

十 プリオット師 帰天

昭和の初期、「炬火」等を通して仙台教区で活躍された聖ドミニコ会士ヴェンサン・プリオット師は、昭和53年12月30日、カナダで帰天された。享年76歳。1月10日、元寺小路カテドラルで、佐藤司教による追悼ミサが献げられた。

故人の略歴

- 明治36年10月15日 カナダに生まれる
- 昭和2年3月6日 ドミニコ会入会
- 同 6年3月7日 初誓願
- 同 7月29日 司祭叙階
- 同 8年9月来日 仙台教区に着任
- 同 10年1月14日 元寺小路教会に
- おいてたいまつ誌・オリエンスの出版、広報による布教に献身
- 同 21年3月 聖トマス学院創立
- 同 52年5月11日 静養のため、カナダへ帰国
- 同 52年12月30日 カナダで帰天

仙台教区修女連

院長研修会・総会報告

晩秋の松島湾を見晴らす仙松閣で、11月15、17日、仙台教区修道女連盟の行事の一つとなっている院長研修会が行われた。

講師には、今夏ボナベントウラ大(米国)の霊性研究所から帰国した渡辺義行師(フランシスコ会)を迎えた。

参加者は仙台教区の他、隣接の新潟教区からの3名が加わって、祈りと連帯性を深める恵まれた三日間であった。「現代社会に生きる修道者の中における院長職」に関して、それぞれの共同体の実状と問題点について研修を重ねた。

渡辺師の指導を通して、アッシジの聖フランシスコの風貌をしのびつつ、この東北の風土の中で、各修道会の創立者の精神をいかに適応させるべきかを、探求した。

また、17日には、院長総会を開いて、今春以来懸案となっていた役員改選を行い、来年度の事業計画につ

いても審議した。

ちなみに、役員改選により次のシ

スター方が選出された。

会長 シスターモニック

(オタワ愛徳修道女会)

副会長 シスター目黒

(聖ウルスラ修道会)

書記 シスター村上

(聖ドミニコ女子修道会)

第三回

モンテッソーリ教育

研修会開かる



去る11月11日(土)、八戸市鮫町の公民館を会場に、東北六県在住の日本モンテッソーリ協会会員並びにモンテッソーリ教育実施園に勤務する教職員約90名が集まって、東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター所長の松本静子氏の指導のもとに、第3回研修会を開催した。午前の部は、講師により「モンテッソーリ」子供の家の「スタート」と題して約2時間にわたり、「子供の家」を形成するに当たって踏まえるべき基本的本質的諸問題について

新刊あんない

5・6年生向

二十六の十字架

文・谷 真介  
絵・富賀正俊



12歳の少年をまじえた26人の、日本最初のキリシタン殉教者の物語。

九八〇円 一六〇  
聖パウロ書院

の講演がなされた。

午後の部は、実技に移り、講師の指導による「数の紹介」が前記トレーニングセンター卒業生の松田りつ(フアチマ幼)、山本澄美子(八戸白菊学園幼)、神幸子(仙台白百合学園幼)先生らの実演によって行われ、参加者も加わって熱心に実習した。

なお、この研修会を機会に、東北支部についての話し合いが行われ、まず東北支部の現況(会員数96名)について支部長より説明があった。次に、任期満了に伴う役員改選が行われた。

支部長は従来通り鷹嘴達衛師(塩釜カトリック幼)。

\*  
聖書を読みはじめた

中学・高校生

去る12月27、28日、元寺小路教会  
高校生有志（代表前田信彦君、仙台  
Ⅲ高2年生）による、「聖書を読もう  
会」が、鶴が谷住宅（東仙台）で  
開かれた。

この集まりは、「信仰の中心であ  
る聖書を知らずしてキリスト信者と  
いえるだろうか」との疑問に端を発  
した。そして、「一度、じっくりと  
創世記から聖書を読むだけ読んでみ  
ようではないか」との呼びかけが仙  
台

深沢守三師

また受賞



10月20日から24日まで、仙台ダイ  
エー市民ギャラリーで開催された宮  
城県芸術祭、彫塑の部で、西仙台教  
会主任司祭深沢守三師出品の「想」  
「修道女」が、県芸術祭奨励賞を受  
賞した。

昨年の「夏の陽」、「少年像」の  
河北新報賞につづく受賞である。

台市内6教会の中学生・高校生にな  
され、中学生2人を含む14人がその  
呼びかけに応えた。

そして、約9時間かけて、創世記  
出エジプト記・レビ記を読み、今回  
の集まりの時間切れとなった。

読み終えた後、参加者の中に様々  
な反応があった。ある人は、「もっ  
と日数がほしかった。聖書をもっと  
一緒に読みたい」、「今まで部分的  
にしか知らなかったが全体の流れの  
中で見る事が出来た」、「モーゼ  
に導かれたイスラエルの民が紅海を  
渡る場面を劇的なものと思ってい  
たのに、聖書には簡単にしか書かれ  
ていないのにびっくりした」等の声  
が聞かれた。

ちなみに、元寺小路教会の高校生  
は、不確実性、受験戦争、シラケの  
世代といわれるなかで、昨年ほる泊  
4日の夏期合宿を計画実行し、一年  
のまとめとして「高校生会報」を作  
り、今回の「聖書を読もう会」を自  
分たちの力で成しとげた。そしてこ  
の3月には、2泊3日の黙想会を計  
画している。

◇ ◇ ◇

新園舎建築に着手  
1 小百合園 1



宮城県沖地震により、教区内最大  
の被害（2億円）を蒙った東仙台台  
江に在る養護施設小百合園（善き牧  
者会経営、園長春山姉）は、県から  
居住不能と判定されて、収容児童達  
は、宮城県愛子に在る聖ドミニコ女  
子修道会の宿舎に分散生活を余儀な  
くされていたが、日本全国の教会内  
外の諸団体からの善意の寄付に支え  
られて、この程新園舎の建築着工の  
運びとなった。

新園舎は、床面積998平方メー  
トルのコンクリート二階建、総工費  
1億5千万円。古久根建設東北支店  
が施工するが、4月には竣工の予定  
であり、分散した児童達も、この春  
は新園舎にもどり、以前の学校に通  
学することが出来るようになる。こ  
の工事に着手出来たのは、全国  
の善意の人々の惜しみない協力の賜  
であり、園関係者は、工事の進捗状  
況を見守りつつ、人々への感謝の祈  
りをささげている。

救援金集計

並びに配分報告



昭和53年6月12日、宮城県沖に発生した地震は、宮城県仙台市を中心として仙台司教区にも大きな被害をもたらした。

教会、修道院、学校、幼稚園、保育園、施設の被害総額は、三五、六九八、九一六円に上るが、日本全国のカトリック信者からも、三六、二九三、〇三六円の救援金が寄せられた。

その額は被害総額の約1割に過ぎないが、それでも全国の小さな兄弟達の温かい心は、罹災者の再建意欲を大いに奮い立たせた。



渡辺昭一師

初段(囲碁)

日本棋院八戸支部主催による第19回北奥羽囲碁大会が去る11月26日開催され、鮫教会主任の渡辺昭一師が一級クラスで五戦全胜。めでたく初段の栄位を獲得した。

教区事務所から左のような収支の報告が行われた。

(S.53.11.30現在)単位円

災害援助金		金額	配分	金額
カリタス・ジャパン		31.304.264	仙台司教館・墓地 (2件)	3.500.000
内訳	カリタス・ジャパン (緊急援助)	2.000.000	小教区教会 (12件)	4.290.000
	全司教区よりの募金	29.304.264	修道院 (7件)	10.550.000
仙台司教区事務所		4.988.772	施設 (7件)	7.150.000
内訳	司教館・神学校 (6件)	1.160.000	学校・幼稚園 (15件)	7.140.000
	教会・宣教会 (17件)	660.072	個人 (20件)	1.550.000
	修道会修道院 (21件)	2.257.000	未配分残 (追加送金)	2.113.036
	学校・幼稚園 (5件)	350.200		
	個人 (38件)	561.500		
合計		36.293.036	合計	36.293.036

☆海の星幼稚園

表彰される☆

岩手県大船渡市では、市に貢献した個人、団体を表彰しているが、海の星幼稚園(シュトレイベル師)は、市勢功労者として、教育部門で選ばれ、賞状と銀杯が贈られた。

「人間性育成の基礎は、幼児教育にあり」という信念の下に、22年間国境、人種を越えて就学前教育に貢献した...」功績が認められたもの。

※誤植訂正



昭和54年度版「典礼曆教会所在地」には、左記の誤植があるので、訂正されるよう、発行元カトリック中央協議会では希望している。

記

P12 下から11行目

誤 10月21日

正 10月28日

P 34 22行目 布教の日献金を削除  
29行目 布教の日献金を記入

1 . . . . .  
2 . . . . .  
3 . . . . .  
4 . . . . .  
5 . . . . .  
6 . . . . .  
7 . . . . .  
8 . . . . .  
9 . . . . .  
10 . . . . .  
11 . . . . .  
12 . . . . .  
13 . . . . .  
14 . . . . .  
15 . . . . .  
16 . . . . .  
17 . . . . .  
18 . . . . .  
19 . . . . .  
20 . . . . .  
21 . . . . .  
22 . . . . .  
23 . . . . .  
24 . . . . .  
25 . . . . .  
26 . . . . .  
27 . . . . .  
28 . . . . .  
29 . . . . .  
30 . . . . .  
31 . . . . .  
32 . . . . .  
33 . . . . .  
34 . . . . .  
35 . . . . .  
36 . . . . .  
37 . . . . .  
38 . . . . .  
39 . . . . .  
40 . . . . .  
41 . . . . .  
42 . . . . .  
43 . . . . .  
44 . . . . .  
45 . . . . .  
46 . . . . .  
47 . . . . .  
48 . . . . .  
49 . . . . .  
50 . . . . .

980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371

# 仙台司教区 教区事務所だより

昭和54年  
1月10日

『マリッジ・エンカウンター』

に出席して

「たった二日間で、私たちの結婚生活そのものが変わってしまった」と言う人が居たらあなたはどう思われますか。そんなことってあり得るのだろうか、とお考えでしょうか、それが事実あり得るのです。

現在日本も含めて、全世界中四十二か国で盛んに行われている『マリッジ・エンカウンター』というものを体験なされば、最初に書きましたことがほんとうに可能になるのだということがおわかりいただけると思います。この事実は、どこの国ということをお問わず、エンカウンターに参加された何百万組の御夫婦が認めておられることなのです。

このエンカウンターというものは、群馬県に居られる神父様がアメリカから日本に持ってこられ、まだ四年程しか経っておりませんが、沖縄・長崎・群馬・北海道など十か所で、ほとんど毎月開かれていく程の盛況です。

私たちも、三年前に結婚しまして現在親子三人の核家族、何かと経験も浅く、のんきな夫婦ですので、あらゆる面で失敗したり、泣いたり笑ったりしながらの毎日です。そんな私たちですが、このエンカウンターを通して得た体験から、家庭というものをどういう方法で、どういう方向に築き上げていくのが一番神様のお望みに沿うことなのかと考えるながら、確信を持っていく努力しております。

神様は、私たちをありのままの姿で、

無条件に受け入れて下さいます。私たちが夫婦として、少しでもその神の愛三位一体の神秘に近づこうとするのなら、私たちも、ありのままの自分があるのままの相手を受け入れなければならぬと思います。全く異なった人格を考え方、感じ方をもった夫婦が、相互にありのままの自分でありのままの相手を受け入れるためには、どのようにして互いによりよく理解し合い、通じ合ったらいのか、そこに私たちの努力があります。そしてそれを私たちはエンカウンターでの体験から知ったのです。ですから、このマリッジ・エンカウンターは、一口に申しますと、夫婦がよりよく通じ合うための道を教えてくれるものなのです。

私たちにとりまして、エンカウンターはたった一度の体験にすぎなかったのですが、私たちの結婚生活を根本から変えてしまったと申し上げても過言ではないと思います。そう申しますと、私たちの結婚生活が、エンカウンター前はどんなに悪いものであったか、と思われるかもしれません。でも、エンカウンター以前も、勿論、主人は誠実でやさしく、家族をとて愛してくれ、

教会の活動も熱心でした。私は私なりに、主人に甘えながら、どうか普通の家庭を保っていたと思います。そう、それはどこの家庭にでも見られるあたり前の、いわゆる良い夫婦だったので。でも、エンカウンター後、私たちは、いわゆる良い夫婦には飽き足らず、よりよい夫婦になろうと決心し、新たな努力を始めたのでした。

社会における最小単位である家庭、それは今生きている私たち、これからも生き続けようとする私たちのために、本当の意味での生きるエネルギーを与えてくれるものであるべきだ、と気付きました。その家庭のはじまりである結婚というものは、誰もがする社会の慣習とか義務とかいうものではなく、神様が定められた秘跡の一つです。ですから、その秘跡を、家庭における結婚生活の中でよりよく生かすことこそ、その家庭をより高く、より深く成長させることにつながる、ということにも気が付いたので。私たちは、この結婚の秘跡の持つ意味の深さ、尊さを日々の体験を通じた夫婦の通じ合いによって実感し、またその秘跡を生かすことから得られる喜び、充実感、

満足感を味わっております。

このエンカウンターは、信者、未信者を問わず、何組かの御夫婦が共に参加し、一人の指導司祭と、エンカウンターの経験の深い三組程の御夫婦の助言を得ながら、主として話し合いの数日間を過ごすという仕方で行われます。たったそれだけの体験がどうして人々の結婚生活を根本的に変えてしまうのか、どこにそれ程の力があるのか、と不思議に思われることでしょう。でも事実として、その体験のすばらしさ、不思議さを皆語っておられます。

「あー、結婚して三〇年、もっと早くからこの事を知っておきたかった」、「信者でない自分は神など信じなかったが、この不思議さは、神というものを感じさせる」。とにかく、エンカウンターは不思議なものです。

一枚のおせんべいを半分に割り、その片方をどこかに持って行って相手を捜しても、それに合うおせんべいはありません。一組の夫婦もそれと同じです。互いのすばらしさ、なくてはならない二人であることをもっと深く認識して、よりよい夫婦になろうではありませんか。

(仙台・八木山教会・坂本梨枝)

主よ、

変えられるものを

変える勇氣と、

変えられないものを

受けとめる

心の静けさと、

この両者を

見分ける英知を

与えてください。

ロバート・ケネディ